



聖マリア病院雪の聖母聖堂ルルド

第63回全国大会を終えて

会長 清水 裕子

今大会のテーマは、「いのちの奉仕者～カトリック看護師としてどういのちに向き合うか～」でした。

本会の単独開催は、2011年の熊本大会以来です。そのため、開会式の挨拶では、本会をご存じない方のために、本会の創立経過から説明しました。つまり、1928年に国際カトリック看護協会CICIAMSの前身がフランス語圏6カ国の集まりで始まり、カトリック信者の看護師は、全員ここに招かれるよう促されました。創立時点から、ピオ11世により、カトリック看護師は「患者にキリストを運ぶ者、その魂にいのちをはこぶ者」と定義され、看護師の使徒職は司教・司祭との連携とその福音的生活にあると説明されました。1933年にこの国際組織が設立され、日本にも参加への招きがあって、日本カトリック看護協会が1957年5月3日に創立され、その2年後、1959年にCICIAMSに加入しました。世界大会が4年ごと、地域会議がその間で開催されます。世界大会は、第二次世界大戦中の2回を除いて開催され、来年はバンコクで第22回が開催予定で、まもなく100周年を迎えます。世界は4つの地域、パンアメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアがあり、ヨーロッパから地域会議が始まって、アジア、アフリカ地域会議が開催されてきました。2024年には、ケニアのナイロビで第7回アフリカ地域会議が開催され、当方も発表を行いました。2028年はポーランドで10回目のヨーロッパ地域会議が開催されます。CICIAMSを通して、世界の看護師が交流し、キリストに繋がる看護師として互いに研鑽しあうことができます。

今回の大会ミサは、福岡教区長ヨゼフ・アベイヤ司教に主司式、基調講演をなさった大分教区長スルピス森山信三司教の共同司式に加え、パウロ暮林響本部顧問司祭、ケネス・G・スレイマン国際カトリック看護協会教会補佐・聖マリア学院大学教授など、全国顧問司祭団11名によるミサでした。そのミサ会場は、福岡市から移築された旧大名町教会聖堂「雪の聖母聖堂」でした。厳かな中に響き渡る聖なる言葉は、心癒やされる時間をもたらしました。

昼食の時間には、医学研究センターのホワイエで、支部毎の報告が行われ、次年度大阪大会、次々年度東京大会、さらにその次の年度開催候補地も名乗りを上げ、全国交流の輪が広がりました。同時間帯に、学生交流が暮林本部顧問司祭により行われ、長崎の学生さんと聖マリア学院の学生さん達がギター演奏による聖歌を唱和しながら交流しました。

JCNA第63回全国大会裏プロ

本部顧問司祭 パウロ 暮林 響, SVD.

今回の全国大会では、聖マリア学院大学の学生3名がボランティアをしてくださり、長崎からも高校生が一名参加していました。ボランティアの3名は、ポロシャツを同じものにそろえ、会場まで、また聖堂までの道しるべとなって立っておられた青年です。

お昼の時間にホールでは各支部の活動報告を兼ねた交流会が進められていましたが、名古屋支部の活動紹介を終えたところでこの場を離れ、学生さんたちのためにあつらえられたスペースで、私は本部顧問司祭としてでしょうか、彼らのための時間を託されました。

与えられた45分のために準備していたものは、すでにカトリック看護師としての道を歩む決意をした青年のためだったのですが、自己紹介を始めてみると、どうやらそういうメンバーでもなかったようだったので、用意してきたものはとりあえず白紙にして、とにかくこの環境の異なる大学生3名と高校生1名に共通の分かち合いとなれるような問いを立てることが必要となりました。

幸い、お二人の先生方と若手看護師さんの同席を得て、「キリスト教は何を大事にしている団体に見えるか」という問いを中心に、高校や大学の授業で触れたキリスト教の価値観、カトリック看護師として大事にしていることの体験談などが言葉になり、看護という奉仕とキリスト教の価値観の密接なつながりを見出すことのできるスペースとなったのではないかと思います。突然の呼びかけに答えて青年たちとの分かち合いの場に駆けつけてくださった助っ人のお三方には感謝に堪えません。

特にボランティアの3名は午前中の奉仕で帰ることになっていましたので、せっかく何かのご縁でJCNAの全国大会

に居合わせるようになったのですから、午前中の道案内の際にカトリック看護協会の皆さんを見たり、皆さんから声をかけてもらったり、ミサの雰囲気に触れたりしながら、生きたカトリック看護師の有様から得たものを、言葉にまとめて表現する機会が与えられたことは、若き学び多き日々を過ごす彼女たちにとって、貴重なものとなったことでしょう。この場の提供を考え付いてくださった会長の展望には心底感嘆しております。

ありがたいことに、この会のために印刷していった「わたしをお使いください」は皆が知っている歌だったので、こうした聖歌を始めに歌い、終わりに名古屋支部で大会が行われたときに皆で作詞作曲した「癒しの手、奉仕の手」を紹介して一緒に歌ってもらうなど、歌を通して祈りの時間を過ごすこともできたと思います。このすべてを見守り導いてくださった神様、マリア様に心から感謝いたします。

短い歌と分かち合いの時間でしたが、彼らの人生とその日の体験とを振り返り、味わいながらすごしたこの時間が、これから選択していく人生の旅路へのヒントや励ましとなることを切に願います。

2025年度第63回全国大会臨時総会開催報告

2025年9月14日（日）17:00～18:10に、2025年度第63回大会臨時総会（ハイブリッド）が開催されました。

会場 ハイネスホテル久留米5階雅の間＋オンラインZoom（神言会）

配布資料 2025年度第63回全国大会臨時総会資料（当日配布）

会議の趣旨説明 規約第28条に基づき開催される。

会議の議事 規約32条に基づく。

総会出席者定足数の確認 規約29条に基づき過半数の支部長の参加により定足数を満たし実施された。

出席者紹介

支部長：佐藤札幌支部長（オンライン）中村札幌副支部長、古関仙台支部長、千田東京支部長、鈴木名古屋支部長、
西川京都支部長、井上大阪高松支部長、河上大阪高松副支部長、山口広島支部長、杉本福岡支部長、
佐藤大分副支部長、Sr. 山本長崎支部長、重留鹿児島支部長、

顧問司祭 暮林本部・名古屋支部顧問、ケン・G・スレイマンCICAMS教会補佐、山口広島支部顧問、
鶴巻長崎支部顧問、崔大分支部顧問、寺浜福岡支部顧問、蓑島札幌支部顧問（オンライン）、
大久保大阪高松顧問（資料のみ）、

本部 清水会長、Sr. 石岡副会長、Sr. 水浦広報役員、山口財務役員、堀田経理担当、

陪席：選挙管理委員 Sr. 木戸会員、向井会員 欠席：巻島HP担当

議長・議事録担当者の選任

会場からの自薦はなく会長推薦で議長を財務役員の山口道子氏、議事録を本部役員の水浦ふじ子氏が担った。

祈り 開催にあたり、暮林顧問司祭の先唱で「ナースの祈り」を唱和した。

【総会概要】

1. 審議事項

- 1) 2026年度第64回全国大会概要が、大阪高松支部井上支部長と会長から説明され、承認された。
- 2) 2027年度第65回全国大会は、東京支部千田支部長から、現時点では期日場所は検討中との説明があった。また、会長からJCNA創立70周年記念大会とすることについて発議され、承認された。
- 3) 2028年度第66回全国大会候補地について、仙台支部（4回目）、長崎支部（6回目）から開催可能性について意見があり、継続審議となった。

2. 出席者の自己紹介

3. 報告事項

- 1) 今回参加者について、総会は29名、大会は事前申し込み会員59名、招待来賓6名、演者・座長6名、ボランティア学生3名、職員9名、学院関係招待12名、合計95名であった。
- 2) 2025年度年次総会以降の入会者5名が報告され、了承された。退会者はなかった。
- 3) 財務報告は、特筆すべき報告はなかった。
- 4) 医療三団体は、6月7日（土）日本カトリック医療施設協会第19回トップ懇談会の報告があり了承された。

5) 6月9日「このとり関西」主催の蓮田健院長の講演会に会長が参加、ベトナム青年の妊娠相談を歓迎された旨、報告された。

6) CICIAMS第22回世界大会発表準備状況として、発表4件のエントリー、9名の参加予定者が報告され、通訳対象となる15名前の参加が促された。旅行社利用の可能性を検討することの説明があった。

7) 2025年6月18日「司教の集い」での会長による講演報告と質問への回答書を送付した旨の説明があり、了承された。

Date	9:00-12:00				12:00-13:00	13:00-17:00				18:00
11/9	Executive Board Meeting 理事会				Lunch	Executive Board Meeting				Dinner
11/10	General Council Meeting 総会				Lunch	General Council Meeting				Dinner
8:00-8:45	8:45-10:15	10:15-10:30	10:30-12:00	12:00-13:30	13:30-15:00	15:00-15:30	15:30-17:00	18:00		
11 カトリック看護師の人間の尊厳と平和に関する視点										
開会ミサ/開 会式/国旗パ レード	Break	基調講演 1: カトリック看護師の人間の尊厳と平和に対するスピリチュアリティの側面。 基調講演 2: ヘルスケアの神学を適用するカトリック看護師の視点			シンポジウム 1: 家庭と通病における人間の尊厳と平和の共通課題			Break	シンポジウム 2: コミュニティと国家レベルでの人間の尊厳と平和の問題の認識	Dinner
12 カトリックの看護師がさまざまな環境で人間の尊厳と平和を推進できるよう支援する										
Mass	要約と考察 全体会議 1: 受訪から尊厳ある死に至るまで、カトリックの看護員に人間価値を促進する力を与	Break	全体会議 2: 人間の尊厳の促進、予防、回復に不可欠なスキルと技術	Lunch	スキル構築セッション: 人間の尊厳と平和を回復するための必須スキル			Break	ポスター発表	文化交流会食

第22回世界大会スケジュール

- 8) 広報役員について支部の支援を会長から求められた。
- 9) JCNA HPの支部活動掲載、災害支援活動などの追加記載が説明された。
- 10) ベトナム語による「リプロダクトヘルス・オンライン相談」運営委員会（オンライン）報告
- Sr. Tran Ti Lan(大阪聖ヨゼフ宣教修道女会、初来日後13年)が参加され、所属の大阪聖ヨゼフ宣教修道女会会長から、通訳奉仕への協力が会長へ寄せられた。日本カトリック難民移住移動者委員会J-CaRM委員長の松浦悟郎司教へ7月22日に情報提供を行い、J-CaRMによるベトナム青年結婚講座や相談のバックヤードに位置づけて連携することの説明が行われた。
- 11) 「スピリチュアルケア研究会」進捗状況が報告された。
- テキストは、Arndt Büssing(医師、ヴィッテン/ヘルデッケ大学教授, ミュンスター哲学神学大学キリスト教スピリチュアリティ専門センター研究教授)編、Spiritual Needs in Research and Practice, The Spiritual Needs Questionnaire as a Global Resource for Health and Social Care, © The Author(s), under exclusive license to Springer Nature Switzerland AG 2021が用いられるとの説明があった。
- 12) 会長選挙管理委員が選任され、紹介された。
- 長崎支部 Sr. 木戸和枝会員（五島聖マリア病院看護師／お告げのマリア修道会）
- 大阪高松支部 向井すなえ会員（ガラシア病院看護師長）
- 13) CICIAMS理事会、地区長活動
- ①ケン・スレイマンCICIAMS教会補佐と清水CICIAMSアジア地区長は、私費で6月19日～22日までバングラデシュカトリック看護協会年次総会に出席した。
- ②2)清水地区長は、Dhaka市Kaligonj Gazipur地区にあるSt. Mary's Catholic Nursing Instituteの困窮状況への支援「St. Mary支援プログラム」をCICIAMSプログラムとして起案し実施している。Sr. 石岡の所属修道会が創立した、Hospital Sisters Mission Outreach(HSMO)で働いていたSr. ニコラの協力を得ているとの説明があった。
- ③8月29日-9月3日にマレーシアカトリック看護協会全国黙想会がコタキナバルで開催され、ケン・スレイマン神父が指導、清水会長もアジア地区長として同国会長を私費で訪問し、歓迎を受けたとの報告があった。
- ④2028年ポーランド、クラクフでのヨーロッパ地域会議への参加要請があった。
- 14) 2025年10月2（木）～4日（土）バチカンのいのち・信徒・家庭省主催第2回国際高齢者パストラルケア会議（イエズス会総本部会場）に清水会長がカトリック司教協議会の依頼により参加予定である。
- 15)2025年10月9日（木）18:30～JCNA顧問司教であるタルチシオ菊地功枢機卿のローマ教区San Giovanni Leonardi教会での着座式に清水会長が私費で参加予定である。
- 16) CICIAMS2026年度改訂倫理ガイドライン
- 2015年版からの改訂箇所アンダーラインを付したものを配布する。二重アンダーラインは、司教司祭との連携を必要とする箇所である。支部での学習会を依頼した。
- 17) Safeguarding Policy for Minors and Vulnerable Adults；未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のためのガイドラインのCICIAMSバージョンの比較（カトリック中央協議会版、国際カリタス版）対照表を配布し、支部での学習会を依頼した。
- 18) JCNA通信、看護大学版創刊

8校の看護大学へ創刊号を送付した。

19) プラチナジュビリーワーキングで発行予定の創立70周年誌に掲載のため、「各支部の歴史」の原稿を各支部長へ依頼した。×切は、2025年12月末の予定。電子ファイルワード版での送付を要望する。

総会配付資料：①CICIAMS事務総長公式記録による世界会議経過、②同左、地域会議記録、③JCNA過去保存資料一覧(JCNA資料室格納、保存資料はペーパーベース)。後日メーリングリストで配布済み。

JCNA次期(2026.4～)会長選挙

9月14日(日)18:10から総会会場にて、2名の選挙管理委員の下、会長選挙が実施された。候補者募集が8月末までに行われ、支部推薦がなく、その後の延長期間に本部石岡副会長から現会長の推薦があったことが報告された。投票権を有する全支部から承認され、現清水会長が再選された。清水会長の経歴が一同に回覧された。

第63回全国大会[福岡支部主催] in久留米聖マリア病院 2025年9月15日

9:10-9:40 開会式

終日MCを務めた前福岡支部長牧山幸二氏のガイダンスの後、日本カトリック看護協会「会員の祈り」が唱えられた。冒頭挨拶の清水会長は、本誌冒頭に記載のCICIAMSや世界の地域会議、本会の設立過程の説明を行い、カトリック看護師の使徒職やカトリック看護協会の目的や役割にふれた。九州では本会が単独開催するのは2011年以来14年ぶりであり、交流の意味を強調した。

続いて、杉本美香大会長は、開催地となった社会福祉法人雪の聖母会や聖マリア病院の会場貸与と職員のボランティア、聖マリア学院大学への学生ボランティア派遣などへの謝意を表明した。

教区長ヨゼフ・アベイヤ司教は、マルコ福音書を引用して、カトリック看護師の使徒職としての役割を励まされた。

本会の会歌を全員で唱和して開会式は終了した。

10:10-11:00 大会ミサ 雪の聖母聖堂(福岡市大名町から移築された旧大名町聖堂)

教区長ヨゼフ・アベイヤ司教の主司式、スルピス森山信三大分教区長の共同司式に9名の全国顧問司祭団が加わり、荘厳の中にも厳かな雰囲気で行われた。



図1 雪の聖母聖堂



図2 大会ミサ

11:45-13:15 記念撮影の後、昼食、懇親会

井出一郎ホールでの記念撮影の後、ホワイエで支部グループ毎に昼食をとり、牧山氏のギター弾き語りの歌にはじまる交流会が開催された。支部からは活動の様子や次回、次々回大会への招待が伝えられ、最後に聖マリア関係者が紹介された。同時時間帯に学生交流が隣りの喫茶室で開催され、暮林師によるギター演奏の歌唱などで交流した。



図3 懇親会導入演奏の牧山氏



図4 各支部からの報告を聞く交流会

13:30-14:15 基調講演

福岡教区司祭・支部顧問司祭のペトロ寺浜亮司神父の座長の下、カトリック大分教区長、スルピス森山信三司教による基調講演「いのちとは何かーカトリック教会の立場から」が行われた。

旧約聖書における「いのち」はネフェシュといい、「のど」を意味する。ネフェシュは魂とも訳され、「渇き」や「欲望」に転ずる。聖書では、「いのち」とも訳される。人間をネフェシュと訳するとき、生きることに渇望する人間を意味する。この渇きは神を見いだすことで癒やされる。このいのちの永遠は、完全な満足を感じる瞬間のようなもので、その時、全体が私たちを包み私たちも全体を包み、過去も未来ももはや無くなる。この時完全な「いのち」といえる、との教皇ベネディクト16世の言葉を回勅「希望による救い」から紹介された。

14:20-15:15 パネルディスカッション

◎パネラー発表

①「いのちの光を灯す奉仕者～ホスピスケアにおける「小さな人々の中の神」との出会い」

聖マリア病院ホスピス病棟緩和ケア認定看護師の正岡佳貴氏から、緩和ケアにおける苦痛緩和に焦点をあてた患者さんとの関わりについて発表があった。

②「子どもにとっての最善と家族の意思決定を支える一保健医療従事者の使命と役割」

聖マリア病院こども家庭医療センター看護師長の金子仁美氏から、先天性の疾患をもつ子どもとその父母への関わり、特に父性役割やBad Newsの伝え方に焦点をあてて、チーム力で関わることの重要性を語られた。

③「いつくしみの看護ー私が歩んできた看護を通して」

退職看護師である日本カトリック看護協会福岡支部会員の村上順子氏から、生涯を通してかかわった精神科看護における患者ー看護師関係のあり方にカトリック看護師としての霊性研修が与えた影響について語られた。

◎パネルディスカッション

基調講演者の森山司教と3名のパネラーを、聖マリア学院大学教授・チャプレンであり、CICIAMS教会補佐のケネス・G・スレイマン師が指定討論者として、ディスカッションを深めた。

16:15-16:30 閉会式

最初に、ナースの祈りが唱和され、続いて福岡支部副支部長東島美由紀氏により決意表明が語られ、杉本大会長から次回大会担当である大阪・高松支部支部長井上理恵子氏に本会の旗が渡されて、大会が引き継がれた。

最後に本部顧問司祭パウロ暮林響氏による歌の分かち合いが行われて閉会した。

清水会長からボランティアの方々への証明書が授与された。学生ボランティアには基調講演の前に、閉会後には、職員ボランティアを代表して聖マリア病院チャプレン室・日本カトリック医療施設協会事務局担当の平田豊見氏に粗品と証明書が渡され、感謝が伝えられた。また、前福岡支部長牧山幸二氏と杉本大会長へ、1年前の



ボランティア証明書授与

突然の大会依頼に快諾を下さったことに謝意が表明され、感謝状が授与された。実質、福岡支部の活動会員は10名にも満たず、聖マリア病院関係者のご奉仕に大きな支えを得て終了することができた。感謝の内に。

尚、前日の会場設営は、9月14日日曜日、13:00集合で行われた。会場となった雪の聖母会聖マリア医学研究センターの建物は、セキュリティのため出入りが制限されており、福岡支部副支部長東島聖マリア病院師長の尽力により会場準備をなしえた。東島氏と正岡氏が会場施設会員として、多大のご奉仕を下さり深く感謝いたします。



図5 会場へ向かう会員



図7 暮林師ギター伴奏



図8 支部からの配布物



図10 雪の聖母聖堂脇ルルド



図9 会場内の聖母像

9月14日総会後の懇親会アルバム



ささやかすぎるプレゼントに温かい笑顔で応じてくださった皆様に感謝！！（掲載同意済）

会長マレーシア黙想会訪問 2025年8月30日-9月2日

CICIAMS教会補佐のケネス・G・スレイマン師は、マレーシアカトリック看護協会の黙想会指導の依頼を受け、アジア地域会長でもある清水会長と共にマレーシアを訪問した。

早朝6:00からの祈りに始まり、22:00までの4日間の黙想会は、東南アジア最高峰のボルネオ島キナバル山麓近くの質素な黙想の家で開催された。日本とマレーシアの交流の絆を深めることができた。



(左写真)コタキナバル大司教区のDatuk John Wong大司教(ケン神父の右)と本部顧問司祭Mark Noel Bonchoi神父(清水の左)と共に。
(右写真)赤いシャツがマレーシアカトリック看護協会会長メリー氏、左奥がマーク顧問司祭。

第22回CICIAMS世界大会 2026年11月11日-13日(14日OP)

2026年 CICIAMS 第22回世界会議 登録料概要
Isan Phu Woon Pastoral Center, アコーンパトナム、タイ

参加者	旅行委員会 メンバー	教会 メンバー	同伴者
参加者 医療従事者、研究者、その他の参加者を含む、定期的に会費に参加される方。早退登録、出席登録、後退登録からお選びいただけます。登録期間には段階的な価格設定が適用されます。			
登録期間	部屋タイプと日付	手数料 (米ドル)	
アーリーバード (7月1日~2026年1月31日)	ツインルーム (2026年11月10日~14日)	590ドル	
スタンダード (2026年2月1日~6月30日)	ツインルーム (2026年11月10日~14日)	650ドル	
後期 (2026年7月1日~6月30日)	ツインルーム (2026年11月10日~14日)	700ドル	

パッケージ比較 - 含まれるもの		
商品 / パッケージ	フルパッケージ	同伴者
会場入場	含まれるもの	含まれないもの
会場セット/小冊子	含まれるもの	含まれないもの
会場へのアクセス	含まれるもの	含まれないもの
宿泊 (ツインルーム)	含まれるもの	含まれるもの
食事	含まれるもの	含まれるもの
文化の夜	含まれるもの	含まれるもの
個人保険	含まれるもの	含まれるもの
バーン・ブー・ワーンの贈り物	含まれるもの	含まれるもの
空港送迎サービス	含まれないもの	含まれないもの
終日ツアー (2026年11月14日)	含まれないもの	含まれないもの

- 重要な注意事項
1. 食事：1日3食 + 軽食2回
 2. 旅行委員会メンバーと教会メンバーには **通証登録期間はありません**
 3. 同伴者には **早期割引および後退登録期間はありません**
 4. **登録は2025年7月1日より** www.ciciams2026.com で開始されます。

2026年11月14日 (14日OP) - ランチボックス付き

ツアー場所	ツアーの詳細
セントルイス病院 セントルイス大学 (看護学部) セントルイス教会 ミサが行われる聖母無原罪大聖堂 歩いて行くアイコンサイアム チャオプラヤー川沿いのディオークルーズ	1人あたり100米ドル ランチボックス付き スケジュール 2026年11月14日の終日ツアー 午前中にバーン・ブー・ワーン牧場センターを訪問 食事付き ツアー中にランチボックスが提供されます ディナーはツアーの食事に含まれています 交通機関 エアコン付きバス乗降 ICD/KBMA/PAO/ポートランドの両方で利用可能

滞在を延長する必要がありますか?

チェックアウト必須旅行ツアーへの参加の希望に問わず、参加費は2026年11月14日正午までにバーン・ブー・ワーン・パストラル・センターでチェックアウトする必要があります。正午を過ぎると会場プログラムは終了し、会場は最終的な料金で変更される場合があります。

11月14日正午以降に会場を延長される場合は、アーミダランド・パンコク・ホテルの宿泊費を自己負担していただきます。このホテルはパンコク内中心部に位置しており、11月14日正午までにバーン・ブー・ワーン・パストラル・センターでチェックアウトしていただく必要があります。

延長：パンコクホテル内で宿泊費を延長したい場合は、このホテルを必ず予約してください。このホテルはホテル側で決定された料金です。ホテルと連絡の取れない場合は、延長料金を支払う必要があります。

上記は、CICIAMSホームページの日本語訳ページです。詳細は、<https://ciciams2026.com/registration/>をご覧ください。10月末までに15名が参加予定となれば、通訳付きとなります。旅行社の手配を計画していますので、支部長経由でご要望をお聞かせください。

来年の世界大会成功のために祈ってください。

2026年タイ開催CICIAMS第22回世界会議のための祈り

慈悲深き父、贖いの御子、そして聖霊よ、
2026年CICIAMS第22回世界会議を照らし、導いてくださいますよう、謹んでお祈りいたします。
すべてのカトリック看護師が心と精神において一つとなり、
信仰に堅く立ち、全人類へのあなたの愛と慈しみのメッセージを証しすることができますように。

主よ、あなただけが、あなたの似姿に創造されたあなたの愛する民の心を支え、
彼らの尊厳を守り、平和のうちに暮らせるようにしてくださるのです。
この平和は、この世では与えられないものです。
三位一体の神に、すべての参加者に祝福を注いでくださいますように。

会議への往復の安全な旅をお祈りいたします。
会議期間中、天候が穏やかで、雨、洪水、パンデミック、病気、
そして政情不安や国家危機を含むあらゆる災害から解放されますように。

主よ、あなたが信仰の種と永遠の御国への希望を蒔かれた地、
タイの温かさと美しさに、すべての心が触れられますように。
私たちは、すべての計画と意図を、父と子と聖霊の愛の御手に委ねます。
この世界カトリック看護師会議が、私たちの神の永遠の栄光のためにありますように。
あなたと共に生き、支配する、あなたの子、キリスト・イエスの恵みにより、
聖霊の一致のうちに、永遠に唯一の神として。アーメン。

2025年6月15日 三位一体の祭日

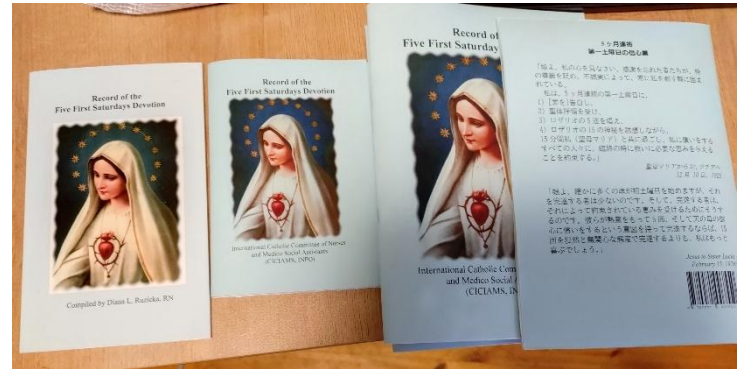
本部からのお知らせ



1. 近々、JCNAスピリチュアルケア研究会をオンラインで開催します。連続講座となります。参加を希望される方は本部までご連絡ください。本会会員と一般参加者の料金は異なります。カトリック教会の教えに基づくスピリチュアルケアを学びたい非会員の方を歓迎いたしますので、お知り合いの方々をお招きください。詳細は、支部長経由で配信いたします。

2. 5回の第1土曜日の信心業の祈り冊子について

CICIAMS事務総長であるMrs. Diana Ružička(MSN, MA, MA, RN)氏が作成した、毎月第1土曜日の祈りの本を9月14日の大会時の全国総会でご紹介しました。Khosi国際会長とケン・スレイマン教会顧問の紹介文が掲載されています。



この祈りは、1925年12月10日、出現した聖母マリアからルチアに告げられた臨終の時の救いのために必要な恵みが与えられるというメッセージに基づいたものと紹介されています。告解、聖体は医療、ロザリオと黙想が毎日の信心業として綴られています。
この和訳本を本部で製本できます。CICIAMS理事会から、1冊1,000円での販売が許可されています。収益はCICIAMSの運営資金に寄付されます。ご利用を希望される方は、支部毎にとりまとめて本部までお申し込み下さい。

3. 2025年5月の第70回年次総会で「機関会員」が承認されました。病院、訪問看護ステーション、施設、看護大学などが会員資格を得ることができます。会員は、各種CICIAMSやJCNA行事に参加できると共に、これらの研修教材（倫理ガイドラインなど）を活用することができます。ご周知くださいますようお願い致します。

編集後記

新しい教皇レオ14世のもとで、希望の巡礼が続いています。
大会会場となった雪の聖母聖堂や久留米教会を訪問する機会をえることができました。
皆様の支部で巡礼など支部での活動がありましたら、掲載記事をお寄せください。
広報担当

発行日	2025年9月20日
発行責任者	清水 裕子
編集	日本カトリック看護協会本部
創刊年	1957（昭和 32）